

# NPO 緑の会

特定非営利  
活動法人  
NPO緑の会  
取手市小文間  
3838-1  
TEL 0297-  
72-8791

## 日本橋川に 鮭の稚魚3万匹を放流

3月6日(木) 日本橋のたもとにある船着き場からサケ稚魚3万匹が放流されました。このサケ稚魚放流は、名橋「日本橋」保存会と地球環境共生ネットワークが2012年から行っているもので、私たちNPO緑の会もお手伝いをさせて頂いていますが、今年で3回目となりました。悪臭やヘドロが減少し、小魚やボラやスズキにウグイなども見られるようになるなど、日本橋川の浄化活動の成果を



多くの方々  
に知っても  
らおうと始  
まったもの  
です。

当日は、  
地元の小学  
校1・2年生  
の児童や地  
元町内会の  
方々など約  
100名に  
加え、飛び  
入りで参加  
する道行く  
人々の姿も  
多く見られ  
ました。子  
供たちは、  
サケが戻っ  
てくる日に

想いを馳せながら、楽しそう  
にサケの稚魚を川に放してい  
ました。



鮭の稚魚



放流に参加した皆さん

順調にいくならば、遠く稚魚  
が戻ってくるのは3、4年かか  
ると云われていますので、来年  
あたりには、最初に放流した稚  
魚たちが、長い旅を終えて日本  
橋川に帰ってくるかも知れま  
せん。

## 野田病院 「第22回健康まつり」に参加

地域の人々の心身の健康を  
守る野田病院では毎年恒例の  
「健康まつり」が4月29日に  
開催され私たちNPO緑の会  
も出店させていただきました。



金本病院長の基調講



NPO緑の会の出店様子

この「健康まつり」では、  
金本秀之病院長の食事と健康



団子作りの様子

予防医学セミナーなどの他、  
太鼓や踊り、模擬店やバザー、  
無農薬野菜の販売などもあり  
大勢の参加者で大変賑わって  
いました。  
NPO緑の会は、EM関連  
商品を沢山販売させていただきました。  
販売ブースの前ではEM  
だんご作りの実演も行ない、  
子供さんたちが喜んで参加し  
てくれました。  
祭りが終わって、病院の金  
本次子先生が手掛ける畑で無  
農薬野菜の大根や玉ねぎを全  
員が沢山いただきました。

# 「善循環の輪茨城の集い IN 水戸」開催 5月17日水戸市常陽藝文センターにて



5月17日、水戸市常陽藝文センターにて「善循環の輪・茨城の集い in 水戸」が開催され、NPO緑の会からも25名ほどが参加しました。  
午前の花のまちづくりセミナーがあり、午後の本大会では比嘉照夫教授の講演「EM技術の最新情報」、田中佳医師の講演「病院いらずの身体づくり」に続き、「EM活用事例発表・質疑応答」など4つの事例発表がありました。実績をもっており、社会貢献度、技術レベル共に非常に優れた内容でした。本大会にあ

わせた元実行委員の皆様が事例集を作成してくれましたので、添付し紹介いたします。  
①環境学習へのEM活用  
代表 市村はつゑ  
市村さんは霞ヶ浦をきれいにする会の副代表で、鉾田川を中心に水質浄化活動を17年も継続しています。発表では、小学校の児童を対象に環境学習に取り組んでいることや、平成21年



捕れた鮭を手にして、右端が市村さん

12月に鮭の卵を買って、小学校や一般に呼びかけ孵化させることから取組み、育てた稚魚を放流することを続けてきました。平成25年10月、ついに北浦の定置網に一匹の鮭が捕獲されたのです。  
発表の間には串挽小学校の生徒さん達が、環境学習に取組みや鮭の稚魚放流の様子などを元気に発表してくれました。  
②環境型地域社会づくりを目指す  
茨城町さわやかエゴの会  
代表 郡司 亘

会員数130名の団体で、淡水と海水が混じり合う汽水湖である「涸沼」は面積は9平方キロメートルあります。涸沼の環境改善のため、EMだんご、活

性液の投入、家庭から流れる排水汚染の軽減、廃油せつけんの製造、自然農法の導入、無農薬栽培農産物の試食会などEMを活用した多方面の取組みが発表されました。  
③健康食材の栽培・加工・販売  
茨城町米蔵高安  
代表 高安江津子  
EMを活用した米作りをはじめ、15年、当初は稲と同時に雑草も勢よく生えて、収穫が前の年の半分の年もありました。  
その後田植え時に穂の先端が2センチ見える位まで水量を増やすなどで、雑草対策も可能になり、予想以上の美味米がとれ、自家用の他販売用も固定客が増えてきました。  
仲間と共に「加工グループ 米蔵高安」を立ち上げ、EMを活用した大豆や青大豆を作り、無添加味噌や揚げもちも販売するまでになっています。  
④EMを活用した自然卵養鶏  
猿島野の大地を考える会  
代表 小野賢二  
自然循環型農業の一環としての小羽数平飼自然卵養鶏を、自立可能な養鶏を確立することを目指して。

飼育方法は、坪当たり10羽以下の平飼、安全なEM発酵飼料、腹八分目の給餌、口ばしを切断しない、四面解放鶏舎で運動場を設置するなどして頑張っています。



講演中の比嘉教授

## 比嘉教授の講演

比嘉教授の講演は、「EMとは？」にはじまり、EMの主たる効果①抗酸化作用(酸化防止と酸化したもの元の状態に戻す力) ②非イオン化作用(電気を帯びてイオン化した状態を元に戻す力)③エネルギー転換力(触媒的三次元のヘリカル構造によって有害なエネルギーを有用なエネルギーに転換)の説明。

EM活用のポイント(ある一定レベルまで増えないと、効果は充分に発揮しない。効果が認められない場合は、効果が出るまで使い続ける)  
これらの基本的なことから、最近の放射能対策まで、パワーポイントを使って、多くの事例を交えながら講演をしていただき、いつもながらの熱弁に多くの示唆を得ることができました。

編集後記  
私の好きな言葉、ウルグアイのホセムヒカ大統領が国際会議で行った演説から、「貧乏なひととは、少ししかものを持つていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」  
KF